

### 進級おめでとう！

三月は弥生。「弥」は「いよいよ」「ますます」などの意味。「生」は「生い茂る」と使われるように草木が芽吹くことを意味します。草木がだんだん芽吹く月であることから、弥生となりました。

万物の生き生きとした息づきに

心はずむ春。子供達も新しい学年に向けて新たな希望に胸を膨らませていると思います。心も体もぐんぐん成長して、夢も希望も大きく広がっていきます。近頃は精巧なロボットができていますが、成長するロボットは出来ません。成長するのは、命あるものだけです。宇宙の大生命は人間に命を与え、成長する喜びを与えてくれました。考えてみると、食べたご飯が血や肉になり体が大きくなっていくということは何と不思議なことでしょう。眠っている間にも心臓は絶え間なく鼓動を繰り返し、血液を全身に送り続けています。肺は黙っていても呼吸を繰り返して、新しい空気を吸い込み、酸素を体に吸収しています。自分の意思でも、お父さんお母さんの意思でもありません。目に見えない不思議な力のおかげです。その力を一般には神様とか仏様、科学者はサムシング・グレイトなどと呼んでいます。何と呼ぼうと太陽を創り、地球を創り、植物や動物を創り、それらを生かしている不思議な力のあることは、だれも否定できません。

身長が伸びたといつて悲しむ人はいません。成長



長することは喜びです。今みんなはぐんぐん成長するときです。一番楽しい時です。一番うれしい時です。人間の心の成長は一生続くのです。

成長して立派に今の学年を終了することができたことを、自然の力(神様)や、お父さんやお母さん、先生方をはじめ、お世話になっている大勢の方々のおかげに感謝し、新しい学年に向かって前進しましょう、

新しい学年で、新鮮なスタートが切れるように、今からしっかりと目標を立てておきましょう。

### 【ひなまつり】桃の節句 三月三日

おひなさまは、上下の秩序や各自の位置や役目が整然と、正しく美しく、調えられていれば、その国は安泰であり、住む人みな調和を得て幸福を保つていけるという大和民族の精神の現れです。

### 【春分の日、春季皇霊祭・神楽祭】三月二十一日

春分の日は、毎年、三月二十一日か二十二日で、この日は昼と夜の長さが同じで、その後しだいに昼が長く、夜が短くなっていきます。春分の日を中日として、前後三日ずつ、計七日間を仏教でお彼岸といいます。春分の日には太陽が真東から出て、真西に入るといいますので、この日、仏道に精進すれば西方浄土極楽へ往けるといふ訳です。そこで寺参り、お墓参りをして先祖を偲びます。私達の命の根であるご先祖の方々に感謝し、家族皆で手を合わせることは、先祖から受け継がれてきた大切な慣わしです。祖霊(みたま)をまつる慣わしは、古い日本の信仰と仏教思想がむすびついたものです。これと同じ意味の大きなお祭りが皇室でも代々行われています。春季皇霊祭・神楽祭がそれで、春分の日には宮中で斎行されるお祭りです。

スタッフから

家庭教育のワンポイントアドバイス

### 「万象我師(ばんししょうわがし)」

江戸時代の儒学者、佐藤一斎著『言志録』より紹介致します。二百年も前の言葉ですが、とても胸に響いてきます。

人は人、自分は自分と別々のいきものだと考えるところに人の世のいろいろの不幸がぎざす。

実は人はわが鏡である。自分の心を映す映像にすぎぬ。やまびこのよべば応える。それにもたええられる。にこにこして話しかけると相手は微笑みかけて応える。大声でどなれば、むっとしてにらみかえす。

物売りが来る。「いらないよ！」と、つつけんどんに言うのとピシャリと戸を引きしめて出て行く。

親子、夫婦、交友、隣人、すべてがわが鏡であって、わが心そのままに変わっていく。

今日までは、相手の人を直そうとした。鏡に向かって、鏡の墨を消すに、ガラスを消そうとしていたので、いっこうに落ちぬ。自分の顔をぬぐえばよい。

人を改めさせよう、変えようとする前に、まず自ら改め、自分が変わればよい。これをひろげていくと人の世のすべては自分の鏡であり、さらに草木も、鳥獣も自然の動きも皆、わが鏡であることが判ってくる。

作物も家畜も、わが心の生活をかえれば、その通りが変わってゆく。それだけではない。私をとるべく大自然は、ただわが鏡というそれだけではない。求めれば、何事でも教えてくれないものはない。無上のわが師である。

(北原明美)



二月 和歌コーナー

てらこやで おひなさまをつくったよ  
もってかえって ままにみせたい

年長 M・H



かまきりの たまごをみたよ てらこやで  
ふわふわしてた ふしぎだな

一年 U・S

ねこやなぎ ふわふわしてる きもちいい  
さわってみたら ねこみたいだよ

一年 O・R

しゅう字でね いつもほめられ うれしいな  
もとききれいに かいてみたいな

あさにはね ニュースをみるよ おかあさん  
まい日みてる おもしろそうに

きれいだな すいせんの花 いいにおい  
三しよくあって びっくりしたよ

せつぶんに まめまきしたよ たのしかった  
またやりたいな みんなでまめまき

一年 J・R

てらこやで おひなさんを つくったよ  
かおをかいなら かわいくなった

二年 Y・T

ねこやなぎ ちいさなめをだし かわいいな  
ねこみたいで ふわふわしてる

二年 M・k

ねこやなぎ さわってみたら ねこみたい  
もってかえって そだててみたい

三年 Y・H

なつとうは 冬の季語だよ  
ねぎしようゆもおいしいけれど

たまごなつとうやっぱり一番

四年 T・I

ひなまつり おだいりさまと おひなさま  
ふたりなかよく ならんでいるよ

春近く つぼみふくらむ  
生き物も 命つないで生きているんだ

日が暮れて もうすぐ終わる一日が  
明日が楽しみ どんな日かなあ

六年 T・A



今月の論語

子曰く  
しのたまわ

「君子は  
くんし

言に訥にして。  
げん とつ

行に敏ならんことを  
こう びん

欲す。  
ほつ

(現代語訳)

孔子先生がおっしゃった。

「君子は、言葉がまくななくても、行動は機敏で  
くんし ことば こうどう きびん

ありたいと願うものだ。」  
ねが

(解説)

言葉ではうまく説明できない時もありま  
ことば せつめい

すね。でも、思いやりの気持ち忘れずに、  
すね やすきもち わす

素早く正しい行動がとれることが大切です。  
すばやく ことば たいせつ

言葉よりも心のこもった行いのできる人  
ことば おこな

になりましょう。

「親子で楽しむ こども論語塾」(明治書院)より

次回は、四月二十三日(土)です。

(文責・藤波)